

◆【教員紹介シリーズ 教育学部学校教育(教育)講座 松本大 先生】

今回は教育学部の松本大先生にお話を伺いました。それではご覧下さい。

○先生の研究分野について教えてください。

僕の研究分野は社会教育と言います。社会教育とは学校教育以外の学びのことです。生涯学習と言った方が馴染みがあるかもしれません。学校教育以外の学習なので対象は幅広く、子供から高齢者まであらゆる人の学習が研究の対象です。

○その中でも先生は何を専門に研究されているのですか。

僕が専門にしているのは成人教育です。成人教育という表現は特に欧米で使われている表現で、子供を対象とした教育と区別して使われます。日本の社会教育研究では、社会教育行政が守備範囲としている実践が研究対象とされがちですが、欧米の成人教育研究の場合は、職場の学習や社会運動など、教育行政とは違う大人の学習も研究の対象となっています。幅広く自由に研究が取り組まれているので、そうした自由さに惹かれて成人教育について研究しています。成人教育の中でも、僕が特に研究しているのは「学習とは何か」という成人学習の理論です。対象としているのは主に市民活動・地域づくりや公民館などにおける人びとの学びで、最近では社会教育関係職員の成長についても研究しています。まとめると、「学習とは何か」という問題関心のもとで市民活動や地域づくり、職員の人たちの実践や現場の豊かさを捉えていこうというのが僕の研究です。

○学校教育と社会教育・成人教育はどのように違うのですか。

学校教育の学習は基本的には授業が中心になるわけです。授業というのは、先生がいて生徒がいて、場所は教室で、教える内容は学習指導要領で定められている、という比較的限定された条件の中で行われます。ところが成人教育、社会教育は学校教育以外での学習なので、学習についてより広く捉えることができます。例えば、地域住民が地域の課題について話し合う中で、お互いに学び、成長し合い、コミュニティを発達させていくということも一つの学習になります。僕としては、教室の中で学習を捉えるというよりも、社会の中で人々が自分たちの暮らしをより良くしていく営みの方が、豊かに学びを捉えられるのではないかと、ということで社会教育や成人教育に魅力を感じてきたということです。

○先生が成人教育を研究するようになった理由を教えてください。

十代の頃は、漠然と社会をより良くしたいと思っていました。また、そのためには学校教育に力を入れるだけではなくて、大人も変わっていかねばならないと考えていて、成人教育に関心を持っていました。直接的なきっかけは、大学三年生の時の生涯学習の調査実習で地域の市民活動を調査したことです。僕は高齢者への配食サービスを行っている市民活

動を調査したのですが、そこでは収益よりも高齢者の役に立ちたいという思いのもとで人々が活動していて、その迫力と熱意に衝撃を受けました。その人たちが持つエネルギーは一体何なのだろうかと、関心をもったわけです。そうした市民活動のエネルギーの豊かさやダイナミズムを分析するには、学校教育中心の従来の教育学では捉えきれないので、その分析を行う上で大人を対象とした成人教育・社会教育というものに魅力を感じていったというのが一番の理由です。

○最後に、学生に向けてメッセージをお願いします。

弘前大学の学生にはすごく真面目な学生が多く、それは非常に良いことだと思いますが、授業の枠に留まってしまっていることが多いとも感じます。もっと積極的に自由に学習を広げていってもいいのではないかと思います。自分が所属している学部や受けている授業から少し離れてみることで初めて見えること、分かることも出てくると思うので、そうした勉強や活動をもっと意識してもいいのかなと思います。

松本先生、どうもありがとうございました！

◆編集後記

今回は教育学部の松本先生にインタビューさせていただきました。私は教育学部ではありませんが、1年生の後期に先生の講義を受けた時から、社会教育に関心を持つようになったので、今回改めてお話を伺うことができ本当に良かったです。先生のお話にもあったように、自分の分野だけに留まらず、学びを広げていくことの重要性を感じました。弘大は総合大学なので様々な分野の友達、先生方ともっと話せる機会があるといいなと思いました。(山本)